



農業委員会だより

発行

中野市農業委員会

編集

農業委員会だより編集委員会



みなみ保育園児を招き、遊休荒廃地対策として栽培したソバの収穫体験

新年のあいさつ

会長 中村秀人



視が必要であります。

また、9月の公布を受けて、農業委員会等に関する法律の改正法が本年4月より施行されることとなり、農地利用の最適化が主たる任務となる中、従来の農地パトロールを基本に農地の点検、利用集積の推進、荒廃農地の発生防止・解消、新規就農支援を促進します。

さらに、平成30年4月に改選となる農業委員の選出方法が、公選制から任命制に移行し、農業委員の定数削減と同時に農地利用最適化推進委員が新設されることとなります。

本年はこれらの合意、改正が農業者と本市農業の振興発展に追い風になるかを精査する年となることも含め、様々なご助言を頂きながら農地の番人として農業委員会の取り組みを強化していく所存でございます。

本年が皆様にとって、実り多き年でありますことをご祈念申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。

皆様には、輝かしき新年をお迎えのことと存じます。昨年、春先の低温、干ばつから始まり夏の猛暑、長雨などの影響により農作物の管理にはかなりご苦労され、結果としてまずまずの年となったのではと推察しております。しかし、農政面においては懸案のTPPが10月に大筋合意、国会決議を死守するどころか重要5品目含む8割もの農産物が関税撤廃される方向となり、国内農業に大打撃を与える危険があります。政府はこれに対し、攻めと守り両面より不安を払拭する政策大綱を決定したとしておりますが、予算措置を含め長期にわたる実行可能策なのか今後注

各部会研修視察報告

農地部会 市村安友

農地部会では、昨年11月11日に市内の農業関連企業の視察を行いました。

最初に、(有)信州興産のレタスの水耕栽培と菌床椎茸栽培の工場と選別荷造り施設を視察しました。

両施設とも、難しい栽培を見事克服し事業として軌道に乗せられたことに感心しました。

特に椎茸は、大規模生産で、日本有数の出荷量とのことでした。ここまで栽培技術を確認

立されるまでは紆余曲折で、並々ならぬ苦労があったと拝察されました。

2箇所目に、(株)高見沢特産事業部で、キノコの加工工場と果実の荷造り場を視察しました。

キノコの加工工場では、えのき茸を使い毎日約2万6千本のビン詰めを行い、その効率の良い流れ作業に驚き、また、新製品の開発に取り組まれる姿にも感服させられました。

今回の視察で、中野市では青果はもとより、キノコの生



▲(有)信州興産視察の様子

振興部会 山田一茂

昨年11月16日に振興部会では、竹原の武田さんの圃場と、道の駅「ふるさと豊田」へ研修視察を行いました。

最初に伺った武田さんは、ハウスサクランボ、プラムの他に、市田柿40㌥を栽培し、特に干し柿の生産に力を入れていらっしやいます。

その干し柿の乾燥中のハウス内で、作業工程や経営方針等の説明をお聞きしました。



▲武田さんの圃場視察の様子

中野市では、古くから干し柿の生産が盛んでしたが、12年前に新たに300本の市田柿

産やその加工においても、全国に誇れる大産地であることを実感しました。この実績を次の世代へ上手く引き継いでいけるよう、農業委員の仕事の重要性を改めて考えさせられました。

を導入し、市内で30軒ほどの農家が栽培に取り組んでいるそうです。

次に視察した「ふるさと豊田」は、農産物を直売する「村のマーケット」的な役割で、山菜、野菜、リンゴ、キノコなど、北信州の四季の豊かな恵みを、消費者に直接届けていました。

農産物の加工や販売路の確立が農業者の励みになり、少しでも荒廃農地解消につながればと思います。

農政部会 牧野 貢

昨年10月16日に、農政部会研修視察を行い、中野市農協平岡共選所と(株)市川商会中野メデイウムセンターの2カ所を視察しました

平岡共撰所では、今年7月に導入された最新鋭の糖度センサー付きの選果機について説明を受けました。

最新鋭の選果機の導入により、秋映の選果では品質に最上級ランク「陽だまり」が追加され、消費者により美味しい果実供給が可能になり、「農産物のブランド化」や「農家



▲(株)市川商会 中野メデイウムセンター視察の様子

所得向上」が期待されます。次の中野メデイウムセンターは、キノコの使用済み培地を利用して家畜用の飼料化を図っています。中野市では、年間11万トンものキノコの使用済み培地が排出される中、「家畜用飼料」や「バイオ燃料」としての再利用が期待され、今後、この施設が循環型社会形成に向けて、益々活躍される事を期待しています。

編集後記

編集委員 清野信之

明けましておめでとうございませう。

昨年4月より、第5代中野市農業委員として活動しております。政府の農業改革により、農業委員の選出については、任命制に移行され、公選制の最後の農業委員になりました。

就任より、中野市農業委員会の歴史と伝統を守りつつ、現在の農業情勢に的確に対応していこうと思っております。

これからも住んでいる地域はもとより、中野市農業の発展のため精一杯に動き回りたいと思います。農地関係の相談などがありまして、なかなか気が楽にお声かけ頂けたらと思います。